

中学生国際留学 プログラム事業

本年度から「子どもたちに国際感覚を身に付けてもらおう」とスタートした中学生国際留学プログラム事業。

8月9日から22日までの日程で、南幌中学校の生徒4名が、カナダ・バンクーバー地域のラングレー市において、現地のトリニティウエスタン大学での語学研修やホームステイによる生活体験、地元の中・高校生との交流など様々な体験をしました。



山本綾乃さん



長谷川貴大君



向井穂歌さん



江口愛夕さん

初めての海外へ

初めての海外ということで大きな期待と不安の中、出発式を行いました。派遣生徒を代表して長谷川貴大君が「課題を持つて有意義に過ごせるようにしましょう」と決意表明を述べて南幌町を出発しました。



バンクーバー行の飛行機に搭乗し、9時間の長いフライトで、バンクーバー空港に到着し、入国審査・税関を経て無事バンクーバーの地に第一歩を踏み出しました。出迎えに来てくれていたコーディネーター兼先生のカレンさんと御主人の車で、空港を出発し、ホストファミリーと待ち合わせている留学先であるラングレー市内のトリニティウエスタン大学に向かいました。ここでは、出迎えに来ていただいたホストファミリーに、代表して山本綾乃さんが英語であいさつとみんなを紹介し、そのあと、それぞれの家庭へ行きました。

留学の成果とカナダで学んだこと 3年 長谷川 貴大

今回、リーダーという大役を任せられ、この留学には多くの期待と不安を抱え臨みました。役場で出発式を行い、僕は「課題を持って有意義に過ごせるようにしましょう。」と言いました。自分の課題は「カナダの生活において、自分の気持ちを伝える」ことでした。

およそ9時間のフライトでバンクーバー国際空港へ到着し、今回お世話になるカレン先生と夫のケビンさんが迎えてくれました。大学では、ホームステイ先のファミリーであるポールさん一家との出会いが待っていました。家を伺い年のチェイス君が案内してくれて、2階には僕の部屋があり、地下室にはビリヤード台と、とても大きな家だなと思いました。

僕が一番心に残ったのは、バンクーバー市内見学でした。蒸気で動く昔の時計を見たり、ロブソン通りで服やお土産をいっぱい買いました。また、バンクーバーオリンピックの聖火台を見に行くと、大きくて、ここに聖火が灯っていたと考えるとドキドキしました。

家族にもたくさんの場所に連れて行ってもらいました。一つ目は、サーモン釣りで、冷たい川の中、何度

も竿を投げましたが1匹も釣れませんでした。それでも食べることができたので良かったです。二つ目は、ナイトマーケットです。日本で言う縁日のような感じで、たこ焼きが売っていたのは驚きました。売っていたものも縁日と似ていて、しいて言えば世界の屋台の味が食べれるのかなと思います。

ホームステイ先で困ったことは、日本人だと気遣ってお米が出てくることです。タイ米でおいしくなかったけれど嫌とも言えず「自分の気持ちを伝える」という課題が守れませんでした。好き嫌いははっきりした方がいいです。カナダの人は怒りません。逆においしかったのは肉料理で、絶対に食べるべきです。

カナダは北海道と似ている感じがしました。ジャガイモも食べたり、牛乳がおいしかったり、僕はこの14日間でカナダが大好きになりました。また、もっと英語を使い、いろんな国にも行きたくなりました。

今度は英検の難しい級に挑戦したり、英語を深く学び、将来に役立てることができればと考えています。今回は、貴重な体験をさせてもらい感謝しています。

ホストファミリーとの日々

【2日目】ホストファミリーと過ごす最初の日曜日。教会に行ったり、ホストファミリーのおじいさんの誕生日パーティーがあったり、バギーやカヤックに乗ったりと、それぞれにまだ緊張しながらも楽しく過ごしました。

英語とのふれあい

【3日目】トリニティウエスタン大学内にあるESLIと呼ばれる、英語を母国語としない人向けの英語教育プログラムによる語学研修が始まりました。



この日は、昨年7月まで南幌町のALITをしていたアロン先生も一緒に授業に参加していただきました。

最初に個別の英語力を確認するテストを行い、英語レッスンのあと、大学のキャンパス内を見学し、現地の方にインタビュー授業ということで、二手に分かれ

【4日目】午前中に英語レッスンをを行い、午後からカナダ西部開拓の起点となったフオートラングラーへ見学に行きました。

て何とか英語でインタビューをしました。

【5日目】英語レッスンの後、ランチタイムから地元の中学生1名と高校生3名が合流し、一緒にクッキー作りやゲームをして楽しみました。

【6日目】近くの保育園を訪問し園児たちに読み聞かせや歌の披露、折り紙を教えました。その後、下校時間まで時間があつたので、1ドルショップやスーパーマーケットに行き、ショッピングを楽しみました。

【7日目】午前中に現地でのショッピングやお金の使い方学習し、午後から実際にショッピングセンターに行き、課題として、カナダでアパートに住んだ場合、1、500ドルで必要なものを買うという設定を与えられ、リサーチを行いました。



【8日目・9日目】この日は休日、向井さんのホストマザーの提案で、生徒たち4人一緒に、バンクーバー市内にあるカナダ万博パビリオンを利用したサイエンスワールドに行きました。

【10日目】バンクーバー市内の観光をしました。スタンレーパーク、ギヤスタウンの蒸気時計、カナダ・プレイス、バンクーバーオリムピック聖火台、ロブソン通りの散策など代表的なところを観光し、帰りにフォートラングラーに立ち寄り、ジェラート屋へ行ってジェラートを堪能しました。



【11日目】アメリカカワシントン州の国境近くにあるホワイトロックの見学に行きました。ここではその名のとおり大きな「白い岩」があり、生徒たちは当然のごとく登って楽しんでいました。



カナダ留学を終えて 3年 山本 綾乃

小さい頃から、海外に行くことに憧れていました。日本語が一切通じない、文化も習慣も全く違う国で、「自分は何を見て何を感じるんだろう」と思っていた矢先、留学の話を知りました。自分の夢がこんなにも早く叶うことに嬉しく思いました。

バンクーバー国際空港まで計10時間半のフライトで初めての国際線、機内食等に驚きつつ到着しました。時差ぼけしてるのにも関わらず、日本とは違う空港内の匂い、標識、入国審査と心の中では大はしゃぎでした。その後、大学で会ったホストファミリーは、幼くて可愛い二人の息子を持つ夫婦でした。とても明るくて親切なファミリーでしたが、すぐには溶けこめず、3歳の男の子が何を言っているのか聞きとれなくて驚いたり、最初の2日間の休日は正直大変でした。

レッスンを受ける大学はとても綺麗で、先生が分かりやすく、英語で単語を説明してくれたのでとても楽しかったです。何より日本語で話せるランチタイムは最高でした。

あっという間に充実した毎日が過ぎました。ファミ

リーとカヤックをしに行ったり、スーパーに行ったり、日本との値段の違いに驚いたり、また授業では、現地の学生とのお菓子作りやカードゲームで盛り上がり、買い物をしたり等沢山の経験ができました。

さよならパーティーでは、司会は緊張しましたが、それぞれの出し物をはじめ、歌や習字のプレゼント、カードを贈ったり等とても楽しかったと同時に、別れが辛くなり声が震えて泣きそうになりました。

少し早い誕生日パーティーまでしてくれた優しいファミリーと、親切な先生。カナダで出会った人の笑顔はみんな輝いていたなと思います。この経験は、私の一生の宝物です。いつかまた、カナダに行こうと思うことができました。それもこれも、すべてはこの留学プログラムを支えてくれた方々のおかげです。本当にありがとうございました。

最後に、来年参加する方に向けて、イエスやノーははっきり言うこと、「そういえば」などを含む日常会話をマスターしておくと思います。頑張ってください。

全ホストファミリーが大学に集まり、生徒たちから感謝の気持ちを込めて「Farewell Party」(サヨナラパーティー)を行いました。歌やピアノ、ダンスの披露や日本文化の伝承として、習字でホストファミリーの名前を漢字にしてプレゼントしたりしました。ホストファミリーにも大変喜んでいただき、パーティーは大成功に終わりました。

とうとう帰国の日になりました。午前中、日系移民ゆかりの地でもある港町ステイブストンに立ち寄り、百年ほどの歴史がある缶詰工場見学や漁港を散策して、バンクーバー空港に向かいました。やっと慣れてきたカナダでの生活を惜しみながら、日本に向けてバンクーバー空港を出発しました。帰りは日付変更線の関係で、カナダの現地時間では2日間かけて、約10時間のフライトで、羽田空港に到着しました。新千歳空港には、予定時間より少し遅れて到着しましたが、家族の方々や高山教育長、松岡校長に出迎えられ、教育長から労いの言葉をいただいたりから、バスに乗り込み南幌町へと帰路につきました。

きつと帰ってから、たくさんのお土産と一緒にお土産話が尽きなかったことでしょうか。

Farewell Party の様子

Thank you for taking
care of us for two weeks!



2週間お世話になりました！

国際留学で学んだこと

3年 江口 愛夕

8月9日から22日まで、カナダ短期留学へ行きました。メンバーは4人で、日本語で話せる唯一の友達として、助け合いながら過ごしました。

空港に着いた時、周りが外国人だったので外国に来た実感がとても湧きました。私のホストファミリーは、とてもきれいなお母さん、見た目は少し怖いけど優しいお父さんと3人の子どもでした。家が広く、お風呂やトイレがファミリーとは別で驚きました。

3日目は大学に行き、教えてくれたカレン先生も、聞きやすいように話してくれました。4日目はフォートラングレーに行き、なぜカナダではビーバーが有名でお金にまで描かれているのかがわかりました。5・6日目は、大学寮内でのお菓子作りや、保育園に行き歌や絵本を読んであげたり、折り紙を教えました。折り方を教える時、上手く伝わらなくて大変でしたが、遊んでくれた時は嬉しかったです。この辺りからカナダの生活に慣れてきたのかなと自分では思いました。7日目は、メトロタウンという大きなショッピングモールに行きました。8・9日目はホストファミリーと

過ごす最後の休日で、公園へピクニックに行ったり、4人でサイエンスワールドへ行きました。そこで顔に絵を描いてもらったり、無人で動くスカイトレインに乗ったりしました。10日目には、バンクーバーで1日買い物や観光をしました。多民族国家と言われるカナダなので、様々な人や文化がありとても勉強になりました。11日目はホワイトロックという、大きな岩がある所へ行きました。12日目は、ホストファミリーとのお別れパーティーをし、私はピアノを弾いたり、皆で歌を歌ったりしました。この時に食べたステーキがとても印象的でした。他にもピザやハンバーガー、ワッフルなど外国ならではの食べ物をたくさん食べました。ご飯も出してくれた時がありましたが、食べた時に日本のお米は美味しいんだな、と思いました。

カナダで過ごした2週間は、長いようでとても短くも感じました。カナダならではの良い所や、改めて気づく日本の良さもたくさん知ることができました。私にとってはとても貴重な体験ができ、絶対に忘れられない思い出にもなったと思います。



■ プログラムを終えて ■

カナダに着いた始めの頃は、言葉や文化、食事の壁に戸惑い、若干のホームシックもありましたが、その壁を少しずつ乗り越えて、カナダから帰るころにはすっかり慣れてしまい、帰国してからの感想は4人とも「まだ、1ヵ月くらいカナダにいたかった。」と言うくらいになっていました。

今回の貴重な体験は、子どもたちにとって「国際社会で活躍する人」になるための大きな第一歩を踏み出したものと思うとともに、この経験を生かし、それぞれが目標を持ち成長していただくことを期待するところです。



カナダでの14日間

2年 向井 穂歌

今回、私はこのプログラムに参加させてもらうことが出来ました。上級生に混じり仲良くなれるか心配でしたが、皆が優しく接してくれてすごく安心しました。事前レッスンのおかげで不安も減り、出発日が近づくにつれどんどん楽しみになりました。

東京から9時間のフライトを終え、バンクーバーに着きました。飛行機をおりると周りは外人さんで、目に入るのも耳に入るのも英語でした。その後大学に行き迎えに来てくれたのは、背が高く優しい顔をしたファーザーのアルと、明るくよく笑うマザーのレイチェルです。家にはシスターのヘイリーがいて、とても美人で見た時はびっくりしました。

ファミリーには色々な所に連れて行ってもらいましたが、中でも印象深い所が2つあります。1つ目は、プロのフットボール選手であるブラザーのコーディーの試合を観に行ったことです。フットボールを観たのは初めてで、最初はルールもわからず観ていたのですが、分かってくると盛り上がって、皆と一緒に楽しむことが出来ました。2つ目はサイエンスワールドで

す。レイチェルが皆も誘ってくれたので、ファミリーとの会話でも少し緊張してしまう私にとって皆がいることで落ち着いたし心強かったです。サイエンスワールドではヘイリーとたくさん話せて嬉しかったです。

留学中は、土日以外は学校に登校します。通常、午前中は授業を受けて、午後からはアクティビティです。アクティビティは色々ありましたが、特にメトロタウンでのショッピングが心に残りました。

来年の参加者に伝えたいことは遠慮しないこと。日本とは違うという意識をしっかりと持つということです。ホストファミリーは本当の家族のように迎え入れてくれるので、英語に自信がなくても積極的に話しかけることで早くなじめると思います。2つ目は、食生活、生活面、買い物など色々な所で違いがあるので、そこに注意しながら楽しく安全に過ごしてほしいということです。

この短期留学は私たちにとってすごくためになるし、楽しいこともたくさんあるので、これからも続けていってほしいです。

【※生徒たちの報告文は、紙面の都合上原文を短縮しています。原文は町ホームページをご覧ください。】